

2019年度「島根大学教育学部現職教員研修」事業実施要項

島根大学教育学部附属教師教育研究センター

1. 研修の目的

変化の激しい現代社会において、学校現場は複雑かつ多様な教育課題に直面しており、教員は、教職生活全体を通じて、実践的指導力を高めるとともに、知識・技能の絶えざる刷新が求められている。

これまで山陰地域では、少子高齢化や過疎化を逆手に、地域課題を探究させ解決策を考えることで、児童・生徒の主体性を向上させ、同時に地域素材の魅力を磨く「学校魅力化」を推進し、全国的にも注目を浴びてきた。こうした状況の中、今後特に、主幹教諭・中堅教員等においては、子どもの未来への学びを豊かに支えていくために、地域との連携、魅力的な教育課程の編成、校内体制のすぐれた組織づくりを実現し、学校全体で魅力化を推進するために、指導的な役割を果たすことが期待されている。

このような観点から、島根大学教育学部は、島根県教育委員会及び鳥取県教育委員会との連携・協働のもと、両県の教員育成指標に基づき、「学校魅力化」を牽引するリーダー教員の育成を目指す現職教員研修プログラムを実施し、今後、管理職に昇任することが期待される中堅以上の現職教員の資質向上を図る。

2. 受講対象者

受講対象者は、次の要件を満たす現職教員で、任命権者の推薦を受けた者とする。

- (1) 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の主幹教諭（候補者を含む）並びにミドルリーダーとしての役割を期待される中堅教員（概ね35歳以上）
- (2) 教育委員会の指導主事

また、必要に応じて島根大学教育学部附属教師教育研究センター長が認める者の聴講を認める。

3. 募集人員

25人程度

4. 研修内容等

(1) 研修の名称及び内容

○研修名

「学校魅力化」を牽引するリーダー教員の力量形成プログラム

○研修の内容

本研修は、島根大学教育学部が企画する講義・演習及び実習等から構成される大学院レベルの特別プログラムに基づき実施する。

本研修は、学校魅力化を牽引するために、a. 地域課題発見力、b. 地域教材授業構想力、c. 地域/コーディネーター連携力、d. 校内体制組織力、e. 教育課程編成力、f. 探究活動伴走力、の6つの力の育成を目指す。研修の内容は、①学校魅力化、

②学校経営に関する最新動向、③教育行政の最新動向、④課題研究、の4つの分野で構成し、「カリキュラムマネジメント」、「学習する組織論」、「リスクマネジメント」、「リーダーシップ」、という観点から、講義・演習等を配置する。

また、島根県及び鳥取県教育関係者並びに島根大学大学院教育学研究科学生、教育学部学生の聴講を認めることで、現職教員を中心とする当該関係者間の交流を通じた学修を実現する。

(2) 研修の期間及び場所

研修期間は4週間とし、次の表のとおり2期に分けて実施する。

また、研修場所は島根大学教育学部（松江市西川津町1060）とする。

期	研修期間
前期	2019年10月21日（月）～2019年11月1日（金）
後期	2020年1月27日（月）～2020年2月7日（金）

※ 1コマは100分間とする。

※ 上記の全研修期間中に、100分×15コマ程度の自己研修の時間を設ける。

5. 講師・指導者

島根大学教員、県教育委員会職員、学外講師（国の機関、他大学教員、教育関係者等）とする。

6. 修了証・資格の授与

2019年度プログラムにおいては、所定の課程を修了した者に、修了証および「学校魅力化リーダー教員」の資格を授与する。

7. 履修証明書の交付

本研修プログラムの所定の課程を修了した者に、本学の履修証明プログラムである「島根大学ミドルリーダー教員養成コース」履修証明書を交付する。

8. 受講料

受講料は徴収しない。ただし、実習教材費等の実費を徴収することがある。

9. 事業の主催等

本研修事業は、島根県教育委員会及び鳥取県教育委員会の共催により島根大学教育学部が主催する。

10. その他

(1) 本研修事業の事務は、教育学部附属教師教育研究センターにおいて行う。

(2) その他研修の実施に関し、必要な事項は別に定める。

2019 島根大学教育学部現職教員研修(前期) 第1ターム

	10/21(月)		10/23(水)	10/24(木)	10/25(金)
1 8:30 ~ 10:10	開講式 ・ オリエンテーション	休日	「山陰の教育魅力化・事例」 (先進地域・学校の取り組み) (成果・課題) 島根大学教育学部准教授 塩津英樹 島根大学教職大学院准教授 中村怜嗣	「学習する組織づくり」 広島大学教職大学院 教授 曾余田浩史	「課題設定演習」 (課題設定の意義・方法) 隠岐国学習センター所長 豊田庄吾 島根大学教職大学院准教授 中村怜嗣
	多目的ホール(517)		多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)
2 10:25 ~ 12:05	「現職教員研修に期待すること」 島根県教育センター 所長 福間俊行 教育企画部長 山崎誠	休日	「山陰の教育魅力化・事例」 (先進地域・学校の取り組み) (成果・課題) 島根大学教育学部准教授 塩津英樹 島根大学教職大学院准教授 中村怜嗣	「学習する組織づくり」 広島大学教職大学院 教授 曾余田浩史	「課題設定演習」 (VISION作り) 隠岐国学習センター所長 豊田庄吾 島根大学教職大学院准教授 中村怜嗣
	多目的ホール(517)		多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)
3 13:00 ~ 14:40	「山陰の教育魅力化」 (島根県・鳥取県の教育施策) 島根県教育庁教育指導課 学力育成スタッフ 上席調整監 村松洋子 キャリア教育スタッフ 調整監 立石祥美 鳥取県教育委員会事務局 参事監兼小中学校課長 中田寛	休日	「ケースメソッド演習」 (教育魅力化をめぐる) 島根大学教職大学院 教授 丸橋静香	「新学習指導要領の特徴と教 育魅力化」 島根大学教育学部 教授 加藤寿朗	「課題設定演習」 (現状の問題整理) 隠岐国学習センター所長 豊田庄吾 島根大学教職大学院准教授 中村怜嗣
	多目的ホール(517)		多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)
4 14:55 ~ 16:35	「学校管理と法令」 島根県教育庁学校企画課 企画人事主事 安原卓治 企画人事主事 野村康徳	休日	「教職大学院生 課題研究発表」 意見交換	自己研修	「課題設定演習」 (課題の設定) 隠岐国学習センター所長 豊田庄吾 島根大学教職大学院准教授 中村怜嗣
	多目的ホール(517)		517・451	研修室(130)・(G42)	多目的ホール(517)
備考					

2019 島根大学教育学部現職教員研修(前期) 第2ターム

	10/28(月)	10/29(火)	10/30(水)	10/31(木)	11/1(金)
1 8:30 ~ 10:10	「学習指導要領 真正な学び」 島根大学教育学部 准教授 御園真史	「探究的な学びとキャリア教育」 国立教育政策研究所 生徒指 導・進路指導研究センター 総括研究官 長田徹	「課題設定演習」 (課題の達成計画) 隠岐国学習センター所長 豊田庄吾 島根大学教職大学院准教授 中村怜嗣	「AL型授業の開発」 関西大学 教授 森朋子	自己研修
	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	研修室(130)・(G42)
2 10:25 ~ 12:05	「学習指導要領 真正な学び」 島根大学教育学部 准教授 御園真史	「探究的な学びとキャリア教育」 国立教育政策研究所 生徒指 導・進路指導研究センター 総括研究官 長田徹	「課題設定演習」 (課題の達成計画) 隠岐国学習センター所長 豊田庄吾 島根大学教職大学院准教授 中村怜嗣	「AL型授業の指導と評価」 関西大学 教授 森朋子	「参加と共同を軸にした授業づ くりの方法論」 島根大学教育学部 講師 松尾奈美
	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)
3 13:00 ~ 14:40	自己研修	自己研修	「課題設定演習」 (課題の達成計画) 隠岐国学習センター所長 豊田庄吾 島根大学教職大学院准教授 中村怜嗣	「AL型授業の指導と評価」 関西大学 教授 森朋子	附属学校園視察 附属センター教員
	研修室(130)・(G42)	研修室(130)・(G42)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)
4 14:55 ~ 16:35	自己研修	自己研修	「課題設定演習」 (発表・振り返り) 隠岐国学習センター所長 豊田庄吾 島根大学教職大学院准教授 中村怜嗣	「ユニバーサルデザインの見 点立つ授業づくり」(児童・生 徒の認知特性/障がい特性) 島根大学教職大学院 准教授 宮崎紀雅	自己研修
	研修室(130)・(G42)	研修室(130)・(G42)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	研修室(130)・(G42)
備考					

2019 島根大学教育学部現職教員研修(後期) 第3ターム

	1/27(月)	1/28(火)	1/29(水)	1/30(木)	1/31(金)
1 8:30 ~ 10:10	「課題の達成状況報告」	「高等学校における探究的学習指導の実際と課題」 島根県立出雲高等学校 教諭 岩田史樹	「研修転移」 (OFFJTとOJTの接続) 帝京大学大学院 講師 町支大祐	「地域と繋がる学校づくり演習」 隠岐国学習センター所長 豊田庄吾 島根大学教職大学院准教授 中村裕嗣	「地域コーディネーターの役割と育成課題」 島根県教育庁 教育魅力化特命官 岩本悠
	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)
2 10:25 ~ 12:05	「3か月間の振り返り」 (課題達成に向け何をしてきたか、課題の再設定、アクションプラン)	「小学校における『ふるさと教育』のキャリアマネジメントの実際と課題」 島根大学教職大学院 丸橋静香・内田誠	「研修転移」 (OFFJTとOJTの接続) 帝京大学大学院 講師 町支大祐	「地域と繋がる学校づくり演習」 隠岐国学習センター所長 豊田庄吾 島根大学教職大学院准教授 中村裕嗣	「地域コーディネーターの役割と育成課題」 島根県教育庁 教育魅力化特命官 岩本悠
	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)
3 13:00 ~ 14:40	「『社会に開かれた教育課程』とカリキュラムマネジメント」 千葉大学教育学部 特任教授 天笠茂	「ICTを活用した探究的な学び」 島根大学教職大学院 教授 千代西尾祐司	自己研修	「学校・家庭・地域の連携におけるスクールリーダーの役割」 元島根大学教育学部 特任教授 柳野幸敬	「ケースメソッド演習」(組織づくり・連携の仕方をめぐって) 島根大学教育学部 准教授 塩津英樹
	多目的ホール(517)	教職大学院カンファレンスルーム(451)	研修室(130)・(G42)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)
4 14:55 ~ 16:35	「『社会に開かれた教育課程』とカリキュラムマネジメント」 千葉大学教育学部 特任教授 天笠茂	「ICTを活用した探究的な学び」 島根大学教職大学院 教授 千代西尾祐司	自己研修	自己研修	自己研修
	多目的ホール(517)	教職大学院カンファレンスルーム(451)	研修室(130)・(G42)	研修室(130)・(G42)	研修室(130)・(G42)
備考					

2019 島根大学教育学部現職教員研修(後期) 第4ターム

	2/3(月)	2/4(火)	2/5(水)	2/6(木)	2/7(金)
1 8:30 ~ 10:10	「『リーダー』としてのミドル」 島根大学教職大学院 准教授 熊丸真太郎	「学校危機管理と学校マネジメント」 熊本学園大学 准教授 波多江 俊介	自己研修	「授業改革のための学校づくり」 (校内研修の活性化) (独)教職員支援機構 つくば中央研修センター研修事業 課 研修プロデュース室 猪股智秋	発表準備
	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	研修室(130)・(G42)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)
2 10:25 ~ 12:05	「『リーダー』としてのミドル」 島根大学教職大学院 准教授 熊丸真太郎	「学校危機管理と学校マネジメント」 熊本学園大学 准教授 波多江 俊介	自己研修	「授業改革のための学校づくり」 (校内研修の活性化) (独)教職員支援機構 つくば中央研修センター研修事業 課 研修プロデュース室 猪股智秋	発表準備
	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	研修室(130)・(G42)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)
3 13:00 ~ 14:40	自己研修	「探究的学習者を育てる理論と演習」 桐蔭学園トランジションセンター 所長・教授 溝上慎一	「山陰地域の生徒指導の課題」 島根大学教職大学院 教授 肥後功一	シンポジウム 「コーディネーターの在り方から学校魅力化を考える」 鳥取県教育委員会教育次長 足羽英樹 東京大学大学院教授 山名淳 島根県教育庁教育魅力化特命官 岩本悠 島根大学教職大学院准教授 中村裕嗣	発表
	研修室(130)・(G42)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)
4 14:55 ~ 16:35	自己研修	「探究的学習者を育てる理論と演習」 桐蔭学園トランジションセンター 所長・教授 溝上慎一	「山陰地域の生徒指導の課題」 島根大学教職大学院 教授 肥後功一	シンポジウム 「コーディネーターの在り方から学校魅力化を考える」 鳥取県教育委員会教育次長 足羽英樹 東京大学大学院教授 山名淳 島根県教育庁教育魅力化特命官 岩本悠 島根大学教職大学院准教授 中村裕嗣	閉講式
	研修室(130)・(G42)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)	多目的ホール(517)
備考					

2019 現職教員研修の構成

分野	テーマ	講師(敬称略)	コマ数	分野別コマ数	
開講式・閉講式等	開講式・閉講式・オリエンテーション	—	—	—	
①学校魅力化	地域課題発見力	山陰の教育魅力化・事例(先進地域・学校の取り組み)(成果・課題)	塩津・中村	2	3
		ケースメソッド演習(教育魅力化をめぐる)	丸橋	1	
	地域教材授業構想力	新学習指導要領の特徴と教育魅力化	加藤	1	6
		学習指導要領 真正な学び	御園	2	
		AL型授業の開発	森	1	
		AL型授業の指導と評価	森	2	
	地域/コーディネーター連携力	地域と繋がる学校づくり演習	豊田・中村	2	6
		地域コーディネーターの役割と育成課題	岩本	2	
		シンポジウム「コーディネーターの在り方から学校魅力化を考える」	岩本・中村・足羽・山名	2	
	校内体制組織力	ユニバーサルデザインの視点に立つ授業づくり(附属学校園視察)	塩津	1	8
		授業改革のための学校づくり 校内研修の活性化	猪股	2	
		山陰地域の生徒指導の課題	肥後	2	
		ケースメソッド演習(組織づくり・連携の仕方をめぐって)	塩津	1	
		研修転移 OFFJTとOJTの接続	町支	2	
	教育課程編成力	学校・地域の魅力化 社会に開かれた教育課程	中村	1	4
		ユニバーサルデザインの視点に立つ授業づくり(児童・生徒の認知特性 / 障がい特性)	宮崎	1	
		ユニバーサルデザインの視点に立つ授業づくり(教育方法論)	松尾	1	
		小学校における「ふるさと教育」のカリキュラム・マネジメントの実際と課題	丸橋・内田	1	
探究活動伴走力	探究的な学びとキャリア教育	長田	2	7	
	探究的学習者を育てる理論と演習	溝上	2		
	高等学校における探究的学習指導の実際と課題	岩田	1		
	ICTを活用した探究的な学び	千代西尾	2		
②学校経営に関する最新動向	学校・家庭・地域の連携におけるスクールリーダーの役割	柳野	1	9	
	学習する組織づくり	曾余田	2		
	「リーダー」としてのミドル	熊丸	2		
	学校危機管理と学校マネジメント	波多江	2		
	「社会に開かれた教育課程」とカリキュラム・マネジメント	天笠	2		
③教育行政の最新動向	現職教員研修に期待すること	福間・山崎	1	3	
	山陰の教育魅力化(島根県・鳥取県の教育施策)	村松・立石・中田	1		
	学校管理と法令	安原・村上	1		
④課題研究	教職大学院生 課題研究発表		1	29	
	課題設定演習	豊田・中村	8		
	課題の達成状況報告	塩津・中村	1		
	3ヶ月の振り返り 課題達成に向け何をしてきたか、課題の再設定、アクションプラン	塩津・中村	1		
	発表準備		2		
	研修(全4週間)の振り返り		1		
(合計)	自己研修		15	75	

100分 × 75コマ = 125時間

本研修における「学校魅力化」とは…

学校が地域と協働し、学校と地域社会の資源や強みを総合的に駆使して、子ども達が自らの成長や学びに取り組む意義を実感できるような教育活動を実現し、地域の未来にとってその存在が活力となるような学校づくりを行うこと。

	1	2	3	4	5
	意欲	知る／理解する	アクションプラン	実践	発信・組織化
a. 地域課題発見力	歴史・現状・地域に暮らす人々など、地域の課題・特色を知ろうとしている。	その地域の特色から、学校や地域をよりよくするための課題を導き出す方法を知っている。	地域の課題を、学校の教育活動との関係から捉え、教育課題として明確化できる。	教育課題の解決に向けて、地域の特色を活かす方法を探り、実践できる。	地域の特色を活かした教育活動の実践を校内外に共有・発信できる。
b. 地域教材授業構想力	地域の特色や、地域の人々の暮らしを、学校の教科等の教材として活用しようとしている。	地域教材を活かしたり、地域の人々に授業に参加してもらう、授業づくりの事例や手法を知っている。	地域について児童生徒が知っていくことで、学びが深まるような授業を構想できる。	児童生徒が継続して学んでいくテーマとして地域教材を開発できる。	開発した教材を校内外に共有・発信したり、チームで教材開発したりすることができる。
c. 地域/コーディネーター連携力	地域とつながりを持って、要望をよく聞き、連携しようとしている。	地域/コーディネーターと、教職員との連携の方法や、連携して教育活動の改善に取り組む手法を知っている。	地域/コーディネーターとの連携の計画や、連携した教育活動を構想できる。	地域/コーディネーターと連携し、教育実践を行ったり、学校の教育活動の改善にあたることができる。	児童生徒が地域に出て学習する意義を地域/コーディネーターと確認し、学校の教育活動を地域に発信していくことができる。
d. 校内体制組織力	校内体制の強みや課題をとらえ、自身が取り組むべきことを考え、知ろうとしている。	学校の若手・中堅・管理職をつないだり、部門をまとめるための手法や理論を知っている。	校内体制の課題や、自身が取り組むべきポイントを見極め、改善のための方法を考えることができる。	学校内の教員が協働しやすいように、校内外で、協力を仰ぎながら、校内体制の改善に取り組むことができる。	校内体制の改善に、継続的に取り組むことができる仕組みを作ることができる。
e. 教育課程編成力	学校の教育課程に沿って、授業計画を見直したり、編成に向けたポイントを探そうとしている。	教育課程を編成するための視点や、それらを活かした教育課程編成の事例や手法を知っている。	教育課程編成の視点に照らし、授業計画や年間指導計画などを見直すことができる。	学校と地域社会の資源や強みを総合的に駆使して教育課程を編成することができる。	地域や他校種との連携や、教科横断的な学習を視野に入れた教育課程をマネジメントすることができる。
f. 探究活動伴走力	児童生徒の発見した問題を探究できるように見守り、学ぶ意義や自らの成長を実感させようとしている。	児童生徒が、探究したい問題を発見し、根気強く活動するための支援や、児童生徒同士をつなぎ、学びを深めるための方法を知っている。	探究活動と各教科とを関連付けながら、指導計画を立て、探究に必要な人的・物的資源を挙げることができる。	探究活動を、各教科と関連付けられるように指導し、必要に応じて探究に必要な人的・物的資源に児童生徒をアクセスさせることができる。	自らの探究活動を、児童生徒が学級・校内・校外に発信できるようにし、探究してきた問題や、活動の意義を広い視点から児童生徒に認識させることができる。

本研修では、「組織づくり」「研究・発信力」を含めた学校の教育力の向上のため、研修の開始時に「知らないこと」「出来ないでいること」など自身に対する課題を十分に意識し、講義・演習を通して「知り」「理解」し、課題研究に向けて、「アクションプラン」を立て、「実践」に移せるような学びを目指し評価します。